

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会報告

令和八年一月句会（第一六四回）

兼題

【淑氣】

開催日

令和八年一月二十四日

開催場所

平和台二・三丁目自治会館

出席者

七名

投句者・選句者

七名

【五点句】

●手をつなぎ二人で転ぶ今朝の雪

玄鳥

今年は流山市内でも一月二日の夜に雪が降り、三日の朝には少し積もった一面の雪景色が朝日にきらめいていた。

この句、手をつないで雪道を歩いていた二人が同時に転んだというのである。

ここで手をつないで歩いていて二人の関係が気になった。助け合ってゆっくり歩く老夫婦か、いつものペースで颯爽と歩く若い二人か、雪景色にはしゃいでいる学童か等々、登場人物によってそれぞれ異なる情景が浮かんでくるのが面白いと思った。

選評

夢心

【四点句】

●ほのぼのと雪見障子に淑氣満つ

小牧

障子の下部にガラスをはめ込んだ雪見障子というものがある。だが、この句ではあえて雪見で切って読みたい。

雪が積もって明るく光る庭を眺めている。ふと障子に目をやると真新しい清潔感のある障子に気付くのである。

選評

玄鳥

【四点句】

●初場所や異国の力士覚悟見せ

小牧

令和八年のスタートを切って「大相撲初場所」が開催され、国技である相撲は今は外国出身の力士も沢山います。その中で母国は今戦争により平和が奪われてしまっている多分ウクライナ出身の安蒼錦のことを作者は下五の「覚悟見せ」で力強く表現し締めている。なんと心強い応援歌であるう。

選評

互酬

【三点句】

歌会や陛下お成りで淑氣増し
パソコンでマリオ顔して初仕事

徹心
互酬

【二点句】

通い路の鉄塔真白淑氣かな
荊妻も和盛装して淑氣あり
整列の体育館や淑氣充つ
初駅伝心と心の襷掛け
初日の出富士とスカイツリーの丈比べ

柳花
徹心
玄鳥
互酬
互酬

【一点句】

鈴緒振り祈ぎ事をする淑氣かな
和菓子屋の重き引戸や年の暮
白鳥が田んぼに集合昼食会
淑氣失せいつもの街の佇まい
藁布団祖母が作りし温かさ
煙突が我家の軸や冬の朝

夢心
玄鳥
玄鳥
玄鳥
玄鳥
玄鳥

【投句】

庭白し一面充つる淑氣かな
また一つ人生刻み淑氣満つ
淑氣満つ嫁子を迎へ真の礼
雪道や自足でつくる白き穴
朝日差し夜来の雪の解けにけり
七草籠愛でるのも良し百花園
吾の狭庭一隅彩る寒椿
神社への列をこゑ張り初鵜
冬枯れの山火事鎮火の目処立たず
天青く地の寒椿すつく立つ
霜焼けの痛痒き指鱈子かな
海続く江ノ電が好きふるさとも

艸寛
互酬
柳花
艸寛
夢心
小牧
徹心
柳花
夢心
柳花
夢心
小牧

「句会後記」

本年初の句会では平和台二・三丁目自治会館で開催されました。
兼題の「淑氣」はそれぞれの会員の着眼点で面白く、この言葉を知らなかった身には勉強になりました。
その後の新年会は近くの中華の店で和やかな雰囲気終始し、俳句から離れての話題も多岐に亘りたまには良いものだと思います。
いろいろお世話下さった方々ありがとうございました。

小牧（小西）